

令和6年度 綾瀬市立春日台中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標	・すすんで学ぶ人 ・精神と身体が健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人
学校経営方針 (グランドデザイン)	2024 綾瀬市立春日台中学校 グランドデザイン《ONE K》 県の教育目標 のふれあう しなやかな 人づくり 綾瀬市の教育目標 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども 学校教育目標 平和の心と人権の意識を育み、主体的に学習し、社会の発展に貢献することを目指して、次の目標を達成する。 ・すすんで学ぶ人 ・精神と身体が健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人 生徒の姿 思いやりと一生懸命に取り組む 逞しい精神力 地域・保護者の願い 確かな学力の定着 温かい人間関係の構築 目指す学校像：人が活き人を活かす学校 育てたい資質・能力：☆ コミュニケーション能力 ☆ 課題解決能力 教育指導の重点（目指す生徒の育成）と方策 主体的に学習に取り組み 確かな学力を身に付けた生徒の育成 ◇ 一歩進んだ校内研究の推進 ◇ 授業改善による学びのある授業の実践 ◇ 知識・技能と思考・判断・表現力の総合 ◇ 学習内容の定着を図る家庭学習の充実 ※：授業に前向きに取り組んでいる生徒 90% 自他を認め、高め合える 思いやりの心をもった生徒の育成 ◇ 心を育てる道徳教育の実践 ◇ いじめ指導の徹底と充実 ◇ 個別支援の充実と集団としての力の涵養 ◇ 安全で豊かな学習・生活環境の整備 ※：思いやりの気持ちを表している生徒 90% 精神と身体が調和した活力ある生徒の育成 ◇ 自己受容感を高め、達成感を得る指導の充実 ◇ 目的意識を高めさせた特別活動の実践 ◇ 人を育てる 部活動の活性化 ※：学校行事・部活動などに積極的な生徒 90% 保護者・地域から信頼される生徒の育成 ◇ 気持ちのよい挨拶の徹底 ◇ 効果のある情報発信の工夫 ◇ 学校組織の活性化 ◇ 地域との協働体制づくり ※：気持ちのよい挨拶がみられる生徒 75% ＜授業の推進方策＞ ・単元指導・評価計画に基づく ・目標を定量化し、立ち回らせる ・本質的な学習内容を追究する ・効果的な指導やしないを工夫する ・振り返りを次の学びにつなげる 目指す 教員 像 ○ 学びのある授業をめざして 授業改善・授業力向上に努める学び続ける教師 ○ 生徒には愛情をもって公平に接し、 真しさと温かさを併せ持つしなやかな教師 ○ 「チームとしての学校」の一員として、 学校運営に主体的にかかわる教師 ○ 職務規律を守り、危機管理意識の高い 地域・保護者の期待に応える教師 （働き方改善） ・働きと生活を 両立した業務 改善の推進 ・勤務時間と 業務の改善 ・見直しをもった 様々な業務 の遂行 思いやりの心と人を活かす力を育む指導の取組 編成：綾瀬市立春日台中学校 あやせコミュニティ・スクール 綾瀬市立春日台中学校
今年度の重点目標	1) 主体的に学習に取り組み、確かな学力を身に付けた生徒の育成 2) 自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成 3) 精神と身体が調和した活力ある生徒の育成 4) 保護者・地域から信頼される生徒の育成

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「すすんで学ぶ人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	生徒の肯定的な意見が昨年度より4ポイント上がりましたが、保護者は16ポイント下がりました。自分はいっと頑張りたいたいと思っている生徒が多いと読み取れるので、すすんで学ぶ生徒の育成ができるようにICTの活用を含めた授業の効果的なしかけを工夫することに努めます。また、保護者にも伝わるような工夫を教職員で検討し、家庭学習を充実させるように努めます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	生徒、教職員ともに一体感を持って活動することができました。体育祭、合唱祭ではコロナ禍を経て工夫してきた新しい型を継続して行い、体育祭では保護者の方や地域の方が参加した競技もあり、大変盛り上がりました。合唱祭では有志の合唱団を結成し、校長の指揮のもと、合唱することができました。部活動では綾瀬市ガイドラインを遵守して活動しました。部員数が少ない部もありますが、どの部活動も、生徒自身が考えて実践できるような機会をつくり、生徒の活動の幅が広がるように努めています。主な結果は総体では剣道部の市大会優勝や個人戦での県大会出場、陸上競技部は駅伝で市大会準優勝。秋季大会ではサッカー部の市大会優勝、バスケットボール部（女子）の市大会準優勝、ソフトテニス部の個人戦県大会出場が挙げられます。また、2月には生徒会や学級委員が中心となって、いじめ防止の取組であるピンクシャツデーを実施します。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かであたたかい人」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒約95%、保護者約97%、教職員約96%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しています。昨年度に引き続き高い数値を示していることに加え、「とてもそう思う」の数値がすべての対象者で上昇していることから、それぞれが日頃から意識してコミュニケーションを取ろうとする気持ちの表れだと思われます。今後もよりよい人間関係作りのため道徳教育や人権教育等の研鑽を積み「心豊かであたたかい人」の育成に努めます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	80%以上の生徒が「楽しく登校している」と回答しています。今後も授業においては、分かりやすくより理解が深まるように努めていきます。また、学級活動や学校行事などでは、生徒が主体的に取り組めるように工夫していきます。生徒の活動や交流を充実させ生徒同士、生徒と教職員がよい関係を作れるようにコミュニケーションを大切にしていきます。今後も学校生活を楽しく送れるようにサポートしていき、支援を必要とする生徒に対して寄り添いながら、学年、学校全体でよりよい集団作りに取り組んでいきます。

5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	日々の授業や学級活動、生活相談等で生徒とコミュニケーションを図っていきます。スクールアンケートでは、回答を複数の教職員で確認し、生徒への声かけを大切にしています。それに加え、面談や家庭連絡を通して保護者との連携も大切にし、生徒の様子や変化等に協力して対応していきます。教職員間で日々の情報交換を行い、今後も指導・支援をチームとしていじめの早期発見・早期対応・再発防止に向けて取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は「精神と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	「とてもそう思う」、「そう思う」の割合が生徒・保護者・教職員すべての対象者で昨年度よりも低い数値を示しています。この結果から、学校行事・授業・学級活動等の中で心身の健康について触れる機会は多くあるものの、自分ごととして捉えることができていない状況が伺われます。今後、健康教育で用いる資料や講演会の内容を教職員だけでなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどからも幅広く意見を求め、熟考し、より身近な内容で取り組めるようにしていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設設備の点検・整備に取り組んでいる。	創立から40年が経過し、校舎の老朽化が顕著になってきたため、生徒が安全で安心できる学校生活を送ることができるよう、校内施設、設備等の保守点検を、今後さらに丁寧に行い、教育委員会と協力して安全管理に努めます。また、今後も、感染症拡大防止等のための衛生管理を徹底します。さらに、PTA校外指導委員会と連携して、通学路の安全を図り、登校指導やあいさつ運動を継続して多くの目で子どもたちを見守っていくことができるよう、地域とのつながりを大切にしていきます。併せて、学級活動や道徳、避難訓練などを通して、自他の身を守ることでできる生徒を育成していきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	約88%の教職員が生徒に対する支援の工夫をしていると答え、支援体制への意識を持って教育活動を行っています。今後も教職員の支援に対する意識を高め、よりよい支援体制を整えていきます。また、生徒や保護者と面談する機会を大切にし、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築いていくことができるように努めます。そして、チームとして支援ができるようにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携を図り、支援の充実にも努めます。それに加えて、教職員のスキルアップを図り、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に向けて取り組んでいきます。

9 組織運営	校長を中心とした運営になっている。	学校経営方針（グランドデザイン）に示された学校教育目標達成のため、各グループの総括教諭を中心に校務の取り組み方を工夫改善し、感染症等への配慮も継続しながら、教育活動を実施します。今後も、総括教諭等がリーダー性を発揮し、教員一人ひとりが意識・意欲を高め、また持ち味を生かして、学校全体の組織力の向上に努めます。連携協働の学校運営を図り、全教職員が一体感を持って教育活動に取り組みます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今年度は、悉皆の研修や基本研修、年次研修以外の自己研鑽のための研修に参加する教員が複数いました。研修で学んだ内容や身に付けた知識・技能を、自己の職務に生かそうと取り組んでいます。校内で実施する全教員対象の研修に加え、自己研鑽の研修も大変重要であると考えます。今後も校内研究、道徳、生徒理解等の充実を目指し、より効果のある研修会を企画・実施するなどして、教員の総合的な指導力向上に努めるとともに、学校教育目標に掲げられている目指す生徒の育成に全教職員で取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	これまでも「学校教育目標」や「教育指導の重点」で示された生徒像を目指して、教育活動を行ってきました。肯定的な意見の教職員は約87%なので100%になるように徹底していきます。あらためてグランドデザインを教職員が意識し、理解を深めていきます。日常の授業だけでなく、道徳、学級活動、生徒会活動、部活動等においても、3年間を見通しながら計画的・継続的且つ効果的に教育活動を行うことで、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指します。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者の「とてもそう思う」、「そう思う」の割合は昨年とほぼ同様で、多くの保護者から肯定的な回答が得られています。学校情報配信システム(C4th Home&School)やタブレットによるオンライン配信により発信した情報が、学校と保護者・家庭をつなぐ重要なツールとなっていると考えます。個人情報の流出の観点から今後も発信する情報をより精査するとともに、本校の教育方針や教育活動、授業の様子など保護者に理解してもらうだけでなく、PTAからのお知らせを配信する等、様々な活用方法の工夫を考えていきます。また、4年目に入るコミュニティ・スクールの取組については、持続可能な地域との連携・協働のありかたの検討をさらに進めていくことができるように努めます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- ・アンケートのデータについて。

→学校評価アンケートについては4年分のデータからも十分に比較・分析できる資料となったが、保護者の回答率が昨年度に比べ下がっているため、アンケートをどのようなかたちで取るかを来年度は検討していく。

- ・いじめの定義について。

→今後とも生徒の悩みや不安感の発見・解決に向けてスクールアンケートを上手く活用していく。文部科学省「いじめの定義」に基づいて対応していることを保護者と共通理解をはかり、今後の指導にいかしていきたい。

- ・グランドデザインの指導の重点の振り返りについて。

→グランドデザインの指導の重点については概ね達成できたと感じるが、主体的に学習に向かう姿勢や自己肯定感の低い生徒が多い状況がある。来年度は主体的な学習の取り組みに「すすんで学ぶ」を具体的に示し、自分でやるべきことを自分で決める生徒の育成を全教員が共通認識のもと指導していく。